課題名

27. チャノキイロアザミウマ防除薬剤の残効について

成果の要約

合成ピレスロイド系のミカントップ乳剤、ペイオフ水和剤、トレボン乳剤、マブリック水和剤の幼虫に対する残効は約1カ月あるが、有機リン系のオルトラン水和剤、スプラサイド乳剤の残効は各々、約3週間、2週間と短かった。

ジマンダイセン水和剤の成虫に対する残効はほとんどなかったが、幼虫に対しては約1カ月の残効が期待できる。

成績概要

第1表 チャノキイロアザミウマに対する薬剤の残効性

薬剤名	発育ステージ	処理前	処理後の虫数(／40果)				防除効率		
		8. 8	8.15	8.22	8.29	9. 5	14日後	21日後	28日後
オルトランWP 1,500倍	成虫A	34	8	32	37	10	57	56	42
	幼虫L	8	5	1	6	62	84	77	35
スプラサイドEC 1,000	A	38	13	32	41	13	57	44	40
	L	11	4	9	26	77	75	46	26
トレボンEC 1,000	A	28	4	3	20	4	91	76	75
	L	10	3	0	10	11	94	80	83
ペイオフWP 1,000	A	31	3	9	11	4	86	82	81
	L	9	10	1	2	38	74	78	60
マブリックWP 2,000	A	31	0	11	6	5	87	86	84
	L	7	0	1	0	19	97	98	80
ジマンダイセン 500	A	13	11	36	17	21	24	19	16
	L	6	10	7	4	6	84	82	84
ミカントップEC 2,000	A	33	1	2	5	4	97	94	92
	L	12	7	0	0	20	88	91	84
無処理	A	36	38	61	46	13	—	—	—
	L	10	28	19	19	76	—	—	—

（長崎県果樹試験場）